

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170202055		
法人名	有限会社 ティージー・サポート		
事業所名	グループホーム 伏古公園		
所在地	札幌市東区伏古1条2丁目3番23号		
自己評価作成日	平成22年7月15日	評価結果市町村受理日	平成22年9月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者と日々の関わりを大切にしている。職員の意識を高める事で介護の質を上げ、入居者様の生活をより良いものに出来る様努めている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigooho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170202055&SCD=370
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3番地北1条ビル3階
訪問調査日	平成 22 年 8 月 27 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは緑豊かな伏古公園に面した閑静な住宅街に立地しています。24時間相談可能な複数の医療機関から、2週間毎にホームへの往診があり、訪問看護師と連携しながら利用者の健康管理にきめ細かな対応をしています。運営者は事務職員等の配置や個別面談を通して職員のバックアップに努め、職場環境の充実を図っています。利用者の「安心・安全」「尊厳ある生活」「地域社会とのつながり」を大切にするとする理念に沿って、職員全員が利用者の思いや希望を汲み取り、その人らしい暮らしの実現に取り組んでいるホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の中に「地域とのつながりを大切にします」を掲げており、毎日の申し送り時に声だし確認し理念を共有し日々の実践につなげている。	理念は毎日の申し送り時に確認するほか、ネームプレートの裏に記載して職員各自が日々理念に沿ったケアサービスに努めています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、お祭りやプランター作り等へ参加している。ホーム便りを町内の方々に回覧し、隣人との挨拶は欠かさずするよう心掛けている。	伏古公園サマーフェスティバルを楽しみ、お休み処を利用できる良好な関係を町内会と築いています。プランター作りはホームの役割となっています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホーム便りを通して、予防法や関連性について取り上げたり随時相談にも応じている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2～3ヶ月毎に開催している。利用者の状況、防火管理体制等毎回議題を変え、報告し意見交換をしサービスの向上に活かしている。	2ヵ月毎に開催し、活動状況や評価への取り組み、防火管理体制等について意見交換しサービス向上に活かしています。会議録は閲覧でき、内容の周知を図っています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	電話で相談したり、状況に応じて時には窓口に出向き報告し相談を行い協力関係を築いている。	申請書や報告書提出時に介護保険課の担当者やケースワーカーと相談する機会を設け、協力関係を築いています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施錠設備は有るが日中は掛けていない。夜間は防犯の為に施錠をしている。身体拘束廃止委員会を設置しマニュアルを作成し、職員は拘束をしないケアに取り組んでいる。	日中玄関が施錠されることはなく、自由に入出りができます。身体拘束廃止委員会が設置され、マニュアルが作成されています。	管理者は身体拘束のないケアを正しく理解し、その実践に努めていますので、今後は、新人職員に対する教育研修の強化に期待します。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束マニュアルを作成し職員に周知している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度は、理解はしているが、学ぶ機会が無い。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者、事務担当者で対応し十分な説明を行い、その場で不安や疑問点を聞き納得した上で契約や解約の手続きを行っており改定時は文書で報告し承諾書を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時やケアプラン説明時に意見や要望を聞き利用者の連絡ノートを活用し職員全員が把握出来るようにしている。意見箱を設置している。	内部・外部の苦情相談窓口を明示しています。家族来訪時やケアプラン説明時に出された意見・要望は連絡ノートに記入して職員全体で共有し、運営に反映させています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議の中で意見交換や話し合う場を設けている。その場で回答してもらえない場合については後日必ず回答してもらっている。	運営者との個人面談や毎月の会議を通じて、職員が自由に意見を述べる機会を確保し、必要に応じ運営に反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回自己評価を行い社長との個人面談を行っている。代表者は現場にも足を運んでくれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のスキルアップを図る為年1回の研修参加を促している。毎月のフロア会議を利用し内部研修を行っている。外部研修参加後はフロア会議の中で報告を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は市、区の管理者会議に出席し意見・情報交換を行っている。職員は外部研修に参加し同業者と交流する機会が有り事例検討会や勉強会を通じたものをケアに活かすように取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	情報を収集しケアプランに組み込み関わっている。その後要望等があれば追加・変更をし出来る限り要望に答えるよう努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記同様。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	十分、情報を得た上で可能な物については御家族にも協力をしてもらい、必要な支援を提供している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で得意な事を提供し色々な事を職員と一緒に楽しむようにしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族とは出来るだけ会話をし、理解をしてもらえるよう努力をしている。受診・散歩等御家族にも協力をしてもらい共にご本人を支える関係作りを築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙・電話等は御本人の希望により対応している。面会時は居室で一緒に過ごせるよう配慮している。	手紙・電話や面会時の配慮、家族との墓参り等を支援しています。ホームとしては馴染みの場所への訪問や関係継続への支援の更なる充実を検討しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に利用者が孤立しないように配慮し、利用者同士が協力出来る機会を作り声掛け・見守りをし職員も一緒に参加し支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了してからの交流は殆ど無いが相談等があれば応じる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	全ては叶える事は出来ないが出来る事は極力支援している。会議や申し送り等でも随時検討をしている。	利用者との日々の関わりや介護記録、家族からの情報をもとに意向の把握に努め、その人らしい暮らしの実現を支援しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の書類や御家族にも協力を得てアセスメントを行い職員全員が把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録に残し、職員間で話し合い共有し現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	概ね3ヶ月毎職員全員でモニタリングし変更やプランに挙げていない事は試行し反映させている。	職員全員でモニタリングやアセスメントを行い、家族、看護師の意見を反映した介護計画を作成しています。追加や変更が必要な場合には、暫定的に実施した上で確定しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	25、26と同様		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望や内容に応じて柔軟な支援やサービスを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアを依頼し楽しむ機会を設けたり利用者が安全に暮らせるよう消防・警察とも連携をとり支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間相談可能な体制が有り、状況に応じて指示を仰いでいる。訪問診療や健康診断を実施している。希望により、かかりつけ医に受診できるよう支援している。	かかりつけ医への受診支援に加えて、協力医のほか、24時間相談可能な医療機関を確保しており、それぞれ2週間に一度の往診により、利用者の受診を支援をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回訪問看護を受けており、1週間の様子、経過を報告し、処置を行ったり、対応の指導を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した場合は管理者・ケアマネが様子を見に行き家族、医師、看護師と相談し情報交換に努め関係作りを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	対応指針を作成。家族に対しては契約の段階で説明をし同意書を取っている。	利用契約時に重度化や終末期に向けたホームの対応指針を家族に説明し、同意を得ています。協力医や看護師、家族と健康状態を共有し、今後の方針を検討しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時連絡チャートは有るが定期的な訓練は行っていない。応急手当の訓練は不十分である。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施し、地域運営推進会議でも協力をお願いしている。	消防署指導のもと、年2回避難訓練を実施しています。防火管理体制の充実を図るとともに9月以降スプリンクラーの設置も予定されています。	火災以外の災害についても、地域住民の方々の協力を得た災害時避難訓練の実施が期待されます。また、車椅子利用者の避難誘導を確実なものにするため、今後、全利用者参加の避難訓練が予定されており実現を期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ誘導時の対応は出来る限り配慮し行っているが、気を付けなければならない点もある。	職員は一人ひとりに応じた声かけや対応を工夫し、プライバシーや羞恥心に配慮した対応に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が自己決定出来る事は尊重しているが、状況によっては対応出来ない時もある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自由時間は個人のペースで生活しているが、臥床時間が多すぎる場合等には声掛けをおこなっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望に沿って好みを尊重し、選べない人に対しては、コーディネートしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の能力に合わせ出来る範囲で協力をお願いしている。常に楽しめるよう一緒に食事をしたり片付けをする機会を意識的に作っている。	能力に応じて食事の準備や後片づけを行い、職員と共に和やかに食事を行っています。希望に応じた誕生会の献立や外食も楽しみとなっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主食を調整し体重増加を防ぐ。食べ物、飲み物等、好みにも配慮している。主治医の指示に従っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛け、一部介助、全介助等利用者に合わせた支援を日々行っている。現在7/9人の口腔内の確認は出来ている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツ着用者もトイレ誘導をしている。現在下着着用者は出来る限り維持出来る様に支援している。	職員は利用者の排泄パターンを把握し、能力を活かしながら個々に応じた誘導、介助を行い、排泄の自立に向けた支援に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分、食事(野菜)摂取で対応しているが、下剤、坐剤で対応する事もある。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回程度入れるように対応しているが、希望に応じて対応する事もある。	週2～3回の入浴を基本とし、利用者の希望に応じて毎日入浴できる態勢となっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣を理解し支援している。夜間、廊下の電気はついている為、気になる人もいると思う。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋の確認、本の活用、薬剤師への質問等で理解をふかめている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意、不得意を取り入れ行っているが、暇をかんじさせている事も多々あるように思う。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気、希望に合わせて散歩プランターの手入れを行っている。家族からの申し出で外出、外泊は実現されている。普段行けない場所については行事を通して外出の機会を増やしている。	天候や体調、希望に応じて散歩や外気浴の支援をしています。年3回程程度の外出行事も利用者の楽しみとなっています。家族の協力で個別に外出や外泊の機会を作っています。	ホームとして、利用者一人ひとりの馴染みの場所や希望を踏まえた外出機会の拡充を検討課題としています。地域やボランティアの方々、実習生等の協力を活かして実現を期待します。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる場合は可能だが、現在ホームで管理している。外出時を利用し使う機会を作っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に沿って支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	動物の写真や季節の花等を飾りや和めるような空間作りをしている。今の所、混乱は見られないが車椅子利用者もいる為の空間は広めの確保が必要と思われる。	生活感のある共用空間は仔犬や仔猫の写真、利用者の写真や作品などが飾られ、和やかで話題作りを誘うスペースとなっています。居間には毎月家族から送られる鉢花が飾られ、季節感のある居心地の良い空間になっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間での一人は中々無い。思い思いに過ごせていると思うが工夫の面では検討の余地はある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の慣れ親しんだ物を置いており個人に合わせた空間作りをしている。	利用者が使い慣れた家具や生活用品、写真等を自由に持ち込み、一人ひとりが居心地よく過ごせるよう配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	解りやすく内部の場所を表示している。利用者の状況に合わせて自立を見守っている。		